

教育プログラム・コースの概要

大学名等	福島県立医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	病理診断学インテンシブコース（インテンシブ）（テーマ①）						
対象職種・分野	医師・血液病理学、病理専門医プログラム専攻医、病理専門医 等						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・病理診断と遺伝子診断の双方を理解して、これらを含む診断プロトコルを新たに作成できる病理専門医 ・新しい診断や治療に結びつくがんの特性について深い知見をもつ病理専門医 						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> ・必修/選択科目10単位以上を履修し、分子病理専門医試験受験資格を得たことを修了要件とする。 ・講義：病理病態診断学講座 ・実習・演習；病理診断科 						
履修科目等	<p><必修科目></p> <p>腫瘍病理学講義（脳腫瘍、甲状腺腫瘍、肺腫瘍、上部消化管腫瘍、下部消化管腫瘍、肝胆膵腫瘍、泌尿器腫瘍、婦人科腫瘍、小児腫瘍、血液造血器腫瘍など 1単位）、腫瘍学病理診断演習（75時間以上：検体取り扱い、標本作成、画像取得、病理診断および関連検査、ゲノム検査方法の選択など）、エキスパートパネル実習（15時間）</p> <p><選択科目></p> <p>腫瘍学病理診断特習（2単位 臓器選択制 形態診断、免疫組織化学・FISH・遺伝子診断、ゲノム検査、エキスパートパネル参加および症例アーカイブ作成）</p>						
がんに関する専門資格との連携	病理専門医・分子病理専門医（日本病理学会、日本専門医機構）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	病理専門医のsubspecialityである分子病理専門医に必要なカリキュラム構成とし、病理診断に関連したゲノム診療について、臓器別あるいは臓器横断的に研修を進めていく。						
指導体制	<p>橋本優子（病理専門医・指導医） 病理病態診断学 教授/ 病理診断科部長/福島県病理専門医研修プログラム責任者</p> <p>喜古雄一郎（病理専門医・指導医、分子病理専門医） 病理病態診断学 講師/ 病理診断科 副部長 を中心に専門医プログラム研修施設である18施設の病理診断科と連携し、多彩な腫瘍診断に携わりながら研修する。</p>						
修了者の進路・キャリアパス	病理専門医＋（細胞診専門医＋）分子病理専門医の取得、腫瘍の病理診断および治療に関連するコンパニオン診断やエキスパートパネルへの専門的な意見を提供する立場での参加が可能となる。また病理検体の取り扱いに関しても専門的な知識を有し、検査技師の指導にもあたれるようになる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	0	4
受入目標人数設定の考え方・根拠	県内における病理医育成状況をベースに、福島県内の6つのがん拠点病院の2/3に本インテンシブコースを修了した人材を1人ずつ配置することを目標とする。						